



町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【子供たちの青年の主張に感動…】

早いもので平成二十九年もあと数週間で終えようとしております。

週末の町長室の机に一人向かい、今年最後の原稿を寄稿しております。

今年は例年になく冬の訪れが早い気がしております。

皆様にとりまして今年の一年はいかがでしたでしょうか？

十二月九日（土）に、青函トンネル記念館で行われました「福島町青年の主張大会」へ出席いたしました。

各学校から選ばれた小学生五名、中学生三名、高校生二名の十名の子供さんたちの主張を聞くことができました。

毎年感じるのですが、私たちの時代に比べて、発表が上手になってきているうえ、考えもすっかりしていると感じております。

見事金賞に輝いたのは、小学生の部で「誠実に生きていくこととは」福島小学校六年生の平野朱

葉さん、中学生の部では、

「三年目に伝えたいこと」

福島中学二年の船尾怜

君、高校生の部が「家族」

福島商業高校三年生の

梅澤萌さんが受賞されました。

発表した十人がそれぞれの年代において今の気持ちと素直に伝えており、大変すばらしい大会でした。

特に最後の発表者の梅澤萌さんは、表現力も豊かに、家族への思いお母さんへの感謝の気持ちに心に沁みるものがありました。発表の最後に「未来の私は、母が幼い私にしてくれたように、その子の未来を見通して、厳しく、温かく関われる人物になつていくようにこれから時間を歩いて行きたいと考えています。」

梅澤さんは、来年の四月から就職するそうですが、しっかりと社会人として成長していくことを期待しております。

十一月二十一日（火）に、伊能忠敬ゆかりの千葉県香取市の宇井市長を表敬訪問し、懇談を深めることができました。今後連携力を進めることで理解をいただきました。また、二十

二日（水）には、伊能忠

敬の銅像を製作中の彫刻

家の酒井先生の横浜市の

アトリエを訪問し、製作

状況を確認するとともに

伊能忠敬研究会の渡辺一

郎名誉代表及び七代目子

孫にあたる洋画家の伊能

洋先生の両名から銅像に

対する監修をいただくこ

とができました。また、

来年行われる記念式典へ

出席を要請することがで

きました。

十二月五日（火）に福

島町の出身者がお世話に

なつている長野県松本市

の笹島建設株式会社の松

本奈川作業所を慰問させ

ていただきました。

現場は観光名所であ

る北アルプスの上高地に

つながる道路で標高約千

メートルの場所にあり、

大変厳しい環境の中で新

栄町の工藤さんや緑町の

佐藤さんなどが頑張つて

働いており、町の近況を

報告するとともに懇談を

深めてまいりました。

今、福島町も人口減少

が進んでおり、厳しい状

況が続きますが、平成二

十九年の人口動態を見ま

すと少し減少のスピード

が緩やかになっております。

これからもすべての町

民がここ「福島町」に住

んでいてよかつたと思え

るような「まちづくり」

を目指し、町民が力をあ

わせ希望と誇りを持って

挑戦する心を忘れること

なく、一年頑張つていき

たいと考えております。

今年一年、豊かで実り

多い年となり、春夏秋冬

が福島町にとりまして素

晴らしい一年となること

をご祈念いたします。